

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地誌学 (Regional Geography)		
ナンバリングコード	E21515	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	選択・教職 教職関係科目(必修): 中学校教諭一種免許状(社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00551	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	本講義では主として中国、インド、日本を取り上げるが、新聞・テレビ等で得られるこれらの国々に関する報道を日常的に把握する努力をして下さい。また、「地理学概論A」および「地理学概論B」を合わせて履修することが望ましい。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退席は認めません。また、座席指定は行いませんが、適切な間隔を空けて着席するとともに、授業に集中し、ディスカッション等の活動への積極的な参加を求めます。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2021』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論A, 地理学概論B		

○基本情報							
授業の目的	自らの出身地や郷里などを他の地域の人に正しく理解してもらいたければ、自らが他の地域をよりよく理解しようとする姿勢を持たなければならない。地誌学とは地域の特質を理解し、その原因や背景を知ることである。しかし、それは単に、どこに何があるといった断片的知識を集積することではない。地誌学を学ぶことは、地域の特質やその原因などを理解することを通して、そこに生きる人や社会をよりよく理解することでもある。このことは、本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことに繋がる。						
授業の概要	第4回までは総論として、地誌学とはどのような学問なのか、地形や気候などの自然環境がどのように地域の特質を形成することになるのかを理解する。その後、中国、インド、日本を考察対象として取り上げる。日本を取り上げるのは、私たちが暮らす身近な地域を地誌学として捉えるための視座を養うためである。中国とインドは、ともに人口大国であり、今後の世界の政治経済的側面において主導的立場を果たすとみられる。両国をごくわずかのキーワードでしか認識していない人も多いが、自然環境やグローバルなスタンス、歩んできた道に基づき、それぞれ独特の特徴を有する。両国を比較対象として地誌学的な知識や方法論を身に付けることは、近い将来、直接的・間接的に日常生活や仕事の場で共に生きていくことになる世界各国の人々の行動様式やメンタリティを理解することにもつながる。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「ディスカッション、ディベート」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	地域に関するニュース・話題に関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	対象とする国や地域に関する基本的な知識を理解することができる。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な地図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地域の現状や変化の背景や要因を考察することができる。	10点	5点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
対面・オンラインの開講形態に関わらず、双方向授業を行うために、あらかじめ指定したページの教科書の予習が行われていることを前提にします。また、授業においては、教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否か、ディスカッション等の活動への参加状況も評価の対象とします。 ワークシートの末尾に、授業で理解したこと、疑問・質問を記入する欄を設けますので、授業において理解できなかったポイント等を記入して下さい。ワークシート内の課題の理解状況を把握したうえで、記入された質問を加えて、次回授業において補足説明を行います。

○その他
指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できること・理解できないことを明確にして下さい。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業後はワークシートの課題や解説を加えた教科書の図表や文章を中心に復習を行い、疑問等は提出前にワークシートに書き込んで下さい。 授業において使用したワークシートは授業後にjpegまたはpdf形式でユニパ上に提出して下さい。授業で使用したワークシートは手元に残りますので、授業後の復習や期末試験への準備として活用して下さい。 ワークシートは別途、ユニパにアップしますので、やむを得ない理由で欠席した場合は、ダウンロードして該当するページの教科書とあわせて自習資料として下さい。

## 2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学 (Regional Geography) 土居 晴洋	授業コード	EK00551
<b>学修内容</b>				
<b>1. 地誌学とは何か</b> 地理学の歴史は人類の未知なる地域への探索の歴史でもある。世界史的に有名な探検家による冒険的活動や軍事的要請などを含めて、人は外の地域を知りたく思い、どこに何があり、どのような特質があるのかを理解しようとした。それらによって得られて地域に関する情報を蓄積することで、地域ごとに特徴があることや地域が異なっても共通する特徴があることを明らかにしてきた。地理学の歴史とも絡めて、地誌学とは何かについて考えていく。				
	<b>予習</b>	教科書6-11ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>2. 地域の特質の基盤としての気候環境</b> 地域の特質は様々な側面から考察することができるが、とりわけ自然的要素が地域の特質の基盤となる。気候の形成メカニズムや世界の気候区分など、気候に関する一般的知識の解説を行い、その理解を目指す。また、気候が地域の歴史や社会、経済などにどのような影響を与えるのかを理解する。				
	<b>予習</b>	教科書48-61、68-69、72-73ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>3. 地域の特質の基盤としての地形環境</b> 地域の特質の基盤となる自然的要素として、地形環境も重要である。様々な地形の特質や形成メカニズムを解説するとともに、世界の地形的特質の地域的差違を理解する。また、地形環境がどのように地域の歴史や社会、経済などにどのような影響を与えるのか、逆に言えば、我々の暮らしが如何に地形的環境の制約を受けているのかを理解する。				
	<b>予習</b>	教科書24-33、64-65、70-71ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>4. 中国の国土と自然</b> 世界最大の人口大国であるとともに、21世紀の世界の政治経済を動かす鍵を握る中国について、4時間をかけて学習する。その第1回は、地球の中における中国の絶対的・相対的位置を確認し、それが中国を理解するうえでどのような意味を持つのかを理解する。また、広大な国土を持つ中国は地域による気候・地形環境の違いを通じて、中国を空間的な広がりとして理解する視点を身に付ける。				
	<b>予習</b>	教科書51-54、57-59、64-65、80、224-226、228-229ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>5. 中国の政治と経済発展</b> 前時の地域を空間的な広がりとして捉えることとともに、時間的推移の中で地域を捉えることも重要である。中国はそのような視点を持つことが如何に大事であるかを理解させてくれる存在である。清朝末期から中華民国、中華人民共和国の成立から現代に至る様々な出来事が、政治的経済的大国へ変貌しつつある現代中国を理解する鍵を提供してくれる。				
	<b>予習</b>	教科書98-101、104-105、229-232、253、263ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>6. 中国の産業の動向</b> 近年の中国の経済発展を支えてきた製造業を中心とする産業に注目する。かつて世界第2位のGDPを誇っていた日本と発展途上国として経済成長を追い求めていた中国の立場が入れ替わった現在において、そのような変化の原動力となった製造業をなどの産業の発展の経路や地域的特質を理解することは、これからの日中関係や国際経済を予測するうえで有益である。				
	<b>予習</b>	教科書130-139、154-155、158-159、231-232ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>7. 中国の社会変化</b> 近代的なビル群や工場などの製造業の現場など、ニュースなどを通して見る中国社会は、画面に映る文字が漢字であることもあって、日本とさして違いがないように感じてしまう。しかし、前時までで見てきた中国の変化や現状を支える社会の特質は日本とは大きく異なる。20世紀半ば以降の人口動態や多民族社会であること、地域コミュニティのあり方などを通して、中国社会の特質と近年の変化の諸相を理解する。そのことは国際化が進む現代世界や日本のあり方を考える基礎ともなる。				
	<b>予習</b>	教科書196-198、218-219、229-233ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>8. インドの国土と自然</b> インドは比較的遠いこともあり、ヒンズー教などの固定的イメージを含めて、日本においては十分に理解されているとはいえない。しかし、インドはまもなく中国を追い抜いて世界第1位の人口大国となることが確実であるほか、世界の政治経済において重要性が急速に増している。インドを理解する初歩として、地球上の位置や国土の広さや地域的多様性を気候や地形などの自然的要素を基盤として理解する。				
	<b>予習</b>	教科書48-52、64-65、242-243ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学 (Regional Geography) 土居 晴洋	授業コード	EK00551
<b>学修内容</b>				
<b>9. インドの歴史とカースト社会</b> ヒンズー教やカースト制度は、日本人がいただくインドのイメージの代表格といえる。しかし、このようなイメージは画一的で表層的であり、逆にそれによってインドの特質を誤解することにも繋がりがかねない。ヒンズー教やカースト制度に関する基礎的な知識を習得するとともに、そのような宗教や社会的特質が生み出された歴史や必然性を考えていきたい。また、これらは決して固定的・不変的ではなく、むしろ極めて流動的な存在であることを理解する。				
	<b>予習</b>	教科書196-199、216-217、218-221、243-245ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>10. インドの農村・農業の近代化</b> 多様で厳しい自然環境を持つインドでは、各地でその自然環境を基盤として農業が営まれてきた。しかし、前時で学んだ社会的特質やイギリスによる植民地経営にも影響され、必ずしも豊かな農業生産が達成されていたわけではない。しかし、インドの経済発展は都市部ばかりでなく、近年は農村地域が確実に成長し豊かになりつつあるといわれる。そのような農村や農業の発展が如何になされたのかを理解する。				
	<b>予習</b>	教科書86-90、96-97、109ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>11. インドのIT産業と経済発展</b> 中国の影に隠れて見えにくいのが、現代インドの経済発展は著しく、それを牽引するのがIT産業である。インドでIT産業を中心として経済発展が進展しつつある理由や背景を理解するには、グローバルな視点とローカルな視点の両者が必要である。これらの視点から現代インドの製造業やIT産業の地域的特質を理解するとともに、近い将来の世界経済におけるインドの果たす役割を展望する。				
	<b>予習</b>	教科書8-9、162-163ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>12. 身近な地域の地誌(東日本)</b> 前時までの学習を通じて、地域を地誌学的に理解することの意義や視点、方法論を修得した。これを基礎として日本を地誌学的に理解していきたい。受講学生の出身地域なども加味しながら、できるだけ身近な体験から理解できるように事例地域を選定したい。東日本においては、関東地方を日本の政治および経済の中心地として、北海道を明治以降の日本の近代化を支えた存在として、また現代日本の食糧や余暇活動の中心地として、そのような特質が具体的にどのように現れているのかを理解する。				
	<b>予習</b>	教科書121-129、176-180、211-213、288-295ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>13. 身近な地域の地誌(中部・西日本)</b> 日本の歴史や文化、20世紀半ばの日本の高度経済成長を支えた地域として、中四国から近畿、中部地方を理解していく。これらの地域には地場産業から重厚長大型産業、先端産業まで幅広く揃い、日本の近現代の経済成長の基盤を提供してきた。その一方で、今や人口減少に突入した日本を考えるうえで、その原点ともいべき過疎化が先鋭的に現れた地域でもある。これらの地域が持つこのような特徴が生み出された原因や原動力を自然環境や位置の問題として理解していく。				
	<b>予習</b>	教科書152-153、154-155、284-287ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>14. 身近な地域の地誌(九州)</b> 九州は本学の多くの学生の郷里であり、自らの経験をもとに「わかったつもり」になっている地域である。しかし、日本の他地域との比較を通して、また九州各地の自然環境や歴史的経緯、他地域との関わりなどを通して見ることによって、客観的に自らの地域を捉え、その特徴を理解することができる。可能であれば、学生各々の場所の体験も踏まえながら、九州の多様で重層的な地誌学的特徴を理解していきたい。				
	<b>予習</b>	教科書148-149、168、184-185、282-283ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>15. 身近な地域の地誌(大分)</b> 本講義の締め括りとして、本学が立地する大分県、特に大分市あるいは大在地区について考えていきたい。日常的に目にする大在地区の景観から何が読み取れ、それがどのような意味を持つのか、また本学がなぜ大分に開学したのかなどを考えていく。そうすることで、大分県や大分市、大在地区の日本や世界における存在意義が見えてくる。以上のことを理解することは、大分県以外の地域出身の学生にとっても、本学で学ぶことの意義について再認識することを促す。				
	<b>予習</b>	教科書149、282-283ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	<b>復習</b>	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>16. 期末試験</b> 期末試験				
	<b>予習</b>	教科書および授業内容をしっかり復習する。		
	<b>復習</b>			